

病 防 第 4 2 号  
平成29年7月27日

各関係機関の長 様  
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)  
このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記  
平成29年度病害虫発生予察注意報第2号  
(斑点米カメムシ類)

-----  
平成29年度病害虫発生予察注意報第2号

平成29年7月27日  
岐 阜 県

作物名 水 稲

病害虫名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生時期 飛騨地域：7月中旬以降  
岐阜・西濃地域、中濃地域、東濃地域：7月下旬以降
- 3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 5月1日から7月20日の予察灯におけるカスミカメムシ類の累積誘殺頭数は各地域で多く認められ、アカスジカスミカメが海津市平原で556頭(平成28年429頭)と平成28年の約1.3倍、高山市国府町で668頭(平成28年69頭)と平成28年の約9.7倍、アカヒゲホソミドリカスミカメが高山市国府町で1,664頭(平成28年184頭)と平成28年の約9倍であった(図1、2)。
- (2) 7月上～中旬に県内48地点で行ったすくい取り調査では、39地点(約81%)の畦畔で斑点米カメムシ類が確認され、イネ科雑草が優占する畦畔ではホソハリカメムシやクモヘリカメムシといった中～大型の斑点米カメムシ類の生息も顕著に認められた(表1)。
- (3) 美濃地域の「あきたこまち」が乳熟期を迎え、斑点米カメムシ類による加害が懸念される。
- (4) 名古屋地方気象台の1ヶ月予報(7月20日発表)では、気温は平成28年より高くなると予想されており、斑点米カメムシ類の繁殖に好適な条件となる。

5 防除上の注意事項

<本田および畦畔の管理>

- (1) 斑点米カメムシ類は、出穂期と同時に水田に侵入し、開花～糊熟期にかけて水稲を加害し、斑点米を発生させる。
- (2) 斑点米カメムシ類の生息密度を低減させるため、畦畔、農道ぎわ、水路ぎわ、休耕田、および水田周辺などの除草を地域全体で一斉に行う。特に、イネ科雑草は好適な餌植物となるため出穂させないように管理する。
- (3) 水稲の出穂直前および出穂後の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込み、被害を助長す

- る恐れがあるので出穂10日前までに実施する。
- (4) 水田内のヒエ類等のイネ科植物は好適な餌植物となるため、水稻が出穂する前に除去する。

<薬剤による防除>

- (1) 散布剤による防除は穂揃期およびその7～10日後の2回実施する。
- (2) 粒剤による防除は出穂期の7～10日後が基本となるが、使用する薬剤により防除時期が異なるので注意する。
- (3) 住宅地付近での防除は、事前周知に努め、薬剤が飛散しないよう注意する。
- (4) ミツバチが飼養されている地域で防除を行う場合は、養蜂業者との連携を密にし、危被害の未然防止に努める。
- (5) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。  
([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) 農林水産消費安全技術センター)

— 参考資料 —

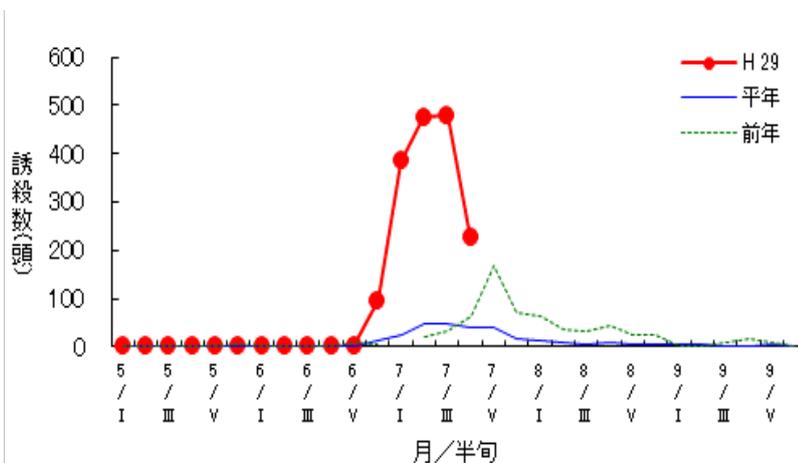


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数の推移（高山市国府町：予察灯）

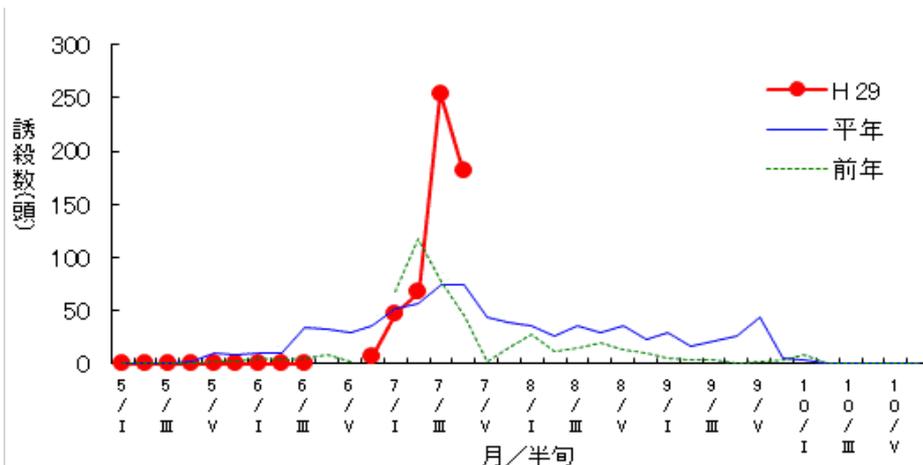


図2 アカスジカスミカメの誘殺数の推移（海津市平原町：予察灯）

注）平成29年6月第4半旬から第5半旬は予察灯の休止期間

表1 斑点米カメムシ類発生地点および主要なカメムシの種類（畦畔20回振すくい取り）

地域	調査地点数	斑点米カメムシ類発生地点数	確認された斑点米カメムシ類
岐阜・西濃	12	11	アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハラカメムシ
中濃	12	9	アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ
東濃	12	9	アカヒゲホソミドリカスミカメ、トゲシラホシカメムシ
飛騨	12	10	アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ
計	48	39	